

新宿せいが子ども園 OB父親保育 お父さんに聞いた父親保育

第45号 2018年1月8日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていけるよう活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

お父さんへインタビュー

12月某日。新宿せいが子ども園で、初の試みとなるOB父親保育が行われました。インタビューは新宿せいが子ども園に年長児を預けている真田海さんにOB父親保育について伺いました。

—昨年6月に父親保育についてインタビューさせていただきました。今回、OB父親保育を行ったとのことですが、OB父親保育とは、一体どのようなものでしょうか？

新宿せいが子ども園には、お父さんが1日保育をする行事があって、今回はじめて卒園したお父さんだけでOB父親保育を行いました。

「地域で地域の子どもの見守る」ことを目的に第1回が開催しました。在園中は父親保育が年に一度あるんですが、子どもが卒園してしまうとその機会がなくて、お父さん同士で卒園しても父親保育があるといいね！という話になり先生たちに伝えたら、その機会を園が用意してくれました。普段の父親保育の場合、初めての行事参加者が多いことやそもそもの目的が「園の保育を知ってもらおう」ということもあり、保育計画をお父さんたちで立てたり、一日の流れを事前に理解して初めての人でもある程度は安心して当日を迎えられるようになっていますが、今回のOB父親保育は初開催ということもあり日案は立てず、子どもたちに聴きながら進めるという流れを体験しました。

—どれくらいのお父さんがOB父親保育に集まったんですか？

父親保育を10年やり続けてきた中で

15名位ですね。卒園した各代のお父さん方が参加しました。今年行った父親保育では50名くらいのお父さんが参加しましたね。



—「地域で地域の子どもを見守る」をテーマに掲げられていましたが、どうしたこのテーマになったのですか？

自分たちの子どもを本当に大切にしようと思ったら、まずはその周りの人々を大切に、地域を大切にしないといけない。だからこそ、自分の子どもを保育するのではなく、地域で地域の子どもたちを見守っていく実践が必要です。朝は知らない子どもだったのに夕方には一日生活を共にした仲間であり、保育を教えてくれた仲間であり、地域の大切な宝であることを実感します。これを毎年、やっていくことが出来る喜び。そして振り返りながらより良い行事にしていける沢山のお父さんたちと出会えたということ。この体験は本当に有難い限りです。

—眞田さんは、OB父親保育でどのような役割をされたのですか？

2歳のクラスに入りました。いつもの父親保育では、日案も事前にお父さん方でその日何をしようかを考えるんです。でも、今回は日案を考えず臨みました。なので、どうしたかという、1日の動きが分からないので子どもたちに聞きました。12月ということもあり、2歳児クラスでも普段の生活の流れをしっかりと子どもたちが理解していて、子どもたちに「この後どうするの？」と聞くと、「次はお集りだから丸く座るんだよ！」とか「次はせーの♪って手を叩くんだよ！」と歌を歌いだしたり、子どもに聞いてお父さんたちも動き、泣く子もいませんでした。朝の会から帰りの会まで、朝は何をするか、何をして遊びたいか、着替えは、排泄は、おむつは、お片付けは、全部を子どもたちが教えてくれました。

—2歳の子たちが全部教えてくれるんですね！

ある意味では、先に勉強したり、計画を立てたり、一日の流れを決めてしまうと、子どもたちには聴かずに決めたプラン通りにやってしまい、子どもたちを動かしていたかもしれません。子どもから聴き、子どもから学ぶという体験を通して2歳の子どもたちがここまで自立しているとは！と、「やってあげる保育ではなく、見守る」ということの大切さを感じました。お父さんたちからも、設定保育ではない今回の保育に、「子どもとの距離感が難しい。見守るためには、見守るという覚悟がいる！」という声も上がるなど、様々な気づきは今まで幾度となく、父親保育を体験してきたお父さんたちならではでした。こういった体験を、毎年一回、同窓会のように行うことが出来ると思うと、本当に有難い取り組みだと感じます。

—先生たちはどうしているのですか？

土曜日ということもあり出勤している先生たちも少なかつたんですが、外からお父さんたちの様子を見守っていました。通常の父親保育だと、お父さんたちも何かしようと張り切って当日を迎えると、10時くらいになるともう、疲れちゃうんですね。今回はじめてのOB父親保育と言うこともあって、あまり無理がないようにというのと、先生たちも1日の保育の大まかな流れは大切にしていければ、中身はお父さんたちに任せるといって温かく見守ってくれていました。また、お父さん方の子どもたちとの関わりの様子を見て、「そんな方法もあるのか！」と普段保育をしている先生方だからこそ気が付くところもあるようでした。

—来年のOB父親保育もまた楽しみです。ありがとうございました。



園児と一緒に遊ぶお父さん

インタビューを終えて思うこと

インタビューを終えて、眞田さんが「子どもたちにとって、知らないおじさんに保育されてるのって、何か面白いね!」と笑っていました。

確かに、知らないおじさんが急に園に来て、いつもの先生はいなく、保育されたらびっくりしてしまいます。

でも、それが地域を見守ることであり、顔や名前を知っているかに関わらず、地域の子どもたちに関心を持って見守ってくれる人がいると思うとどれだけ安心だろうかと思います。

小学生の頃、帰り道に地域のおじさんやおばさんが交通量の多い所に立って黄色い旗を持って、一言、二言声を掛けてくれていました。

特別何か話をするわけではありませんが、それでも見守られているという安心感を感じていました。

OB父親保育について話を聞きながら、他の園では類をみない、先駆的な取り組みであると感じました。父親保育ですら他園の先生方がお聞きすると驚かれるのに、それを卒園児のお父さん方がするとなれば尚更です。

在園中ならまだしも、卒園後もお父さんが保育園に関わっていたら、子どももまた行きたいな~と思うのではないかと感じるのです。

今回初のOB父親保育でしたが、5年後、10年後の姿も追っていきたい（見守っていききたい）とインタビューを通して感じました。

（報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢）

●過去のバックナンバー

第42号

リーダー研修2017 前編

第43号

リーダー研修2017 後編

第44号

A HAPPY NEW YEAR!

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。